

中学受験終え、どう過ごす？ 鉄緑会、すでに800人以上申し込み

有料会員記事 変わる進学

川口敦子、塩入彩、編集委員・宮坂麻子 2022年2月22日 6時00分



東京・代々木に校舎を構える「鉄緑会」=2022年2月7日、東京都渋谷区代々木1丁目、塩入彩撮影



首都圏の中学入試がほぼ終わった。次の目標である 大学受験 を見据え、早くも塾に入る子どもも少なくない。受験を終えた子どもたちはこの時期、どう過ごせばよいのか。(川口敦子、塩入彩、編集委員・宮坂麻子)

「合格おめでとう 次は東大」

1月中旬、中高一貫校生向けの「東大受験指導専門塾」をうたう「鉄緑会(てつりょくかい)」（東京都 渋谷区）のホームページに、新中1を対象にした説明会の案内がアップされた。

「中学入学はそれ自体がゴールなのではありません」「大学受験の準備は早ければ早いほど有利となります」――。

東大412人という昨年の東京本校の合格実績とともに、生徒や保護者を刺激する言葉が並ぶ。「東大合格のための最も確実で

合理的な方法を伝授します」

東大医学部、法学部の学生、卒業生によって1983年に設立された同塾は、講師のほとんどが東大の学部生や院生、卒業生だ。現在は、ベネッセホールディングスの傘下に入り、東京と大阪に拠点を構える。

「ありがたいことに、入会希望者は年々増えています」と同塾の富田賢太郎会長は言う。

大阪は1月中旬ごろから、東京は難関校の 中学受験 が終わった2月初旬ごろから入会の申し込みが相次ぐ。特に東京の場合、中1の4月開講までの入会なら、開成や桜蔭、筑波大 付属駒場など、一部の「指定校」の合格者は選抜試験なしで入塾できる。指定校は昨年より1校増え、14校ある。

昨年のこの時期に入会した生徒は約1千人で、3年前より200人ほど増加。今年も2月17日時点で、すでに800人以上の申し込みがあった。大阪校も、入会希望者が増加傾向にあるという。

最近では、生徒の親が鉄緑会の卒業生であるケースも多くなっているといい、「塾での学習が効率的だと保護者自身がよく認識している」と富田会長。同塾では、目標を「東大合格」と明確にし、中学3年間で習う英語や数学を中1の1年間で完了する。中学入学以降に途中入会も可能だが、「追いつくには、一定の苦労はある」と言う。

この時期に入塾希望者が殺到するのは鉄緑会だけではない。

東京都渋谷区にある英語専門の「平岡塾」も、首都圏の中高一貫校生が多く通う塾の一つだ。新中1向けのクラスは3月に開講。入塾試験や指定校制度もないが、毎年中学受験が終わった直後の2月の申し込みが一番多く、早ければ3月末に定員が埋まるという。

「3月から学校の授業を先取りして学ぶことで、好循環が生まれる」と同塾講師の白土珠穂さん。週1回3〜4時間で、宿題も出る。宿題などが多く出る学校の場合は両立に苦勞する場合もあるが、「いまのお子さんは、小学校の頃から塾通いに慣れていて、中1からも割と自然と通っています」。保護者が元塾生で、子どもの中学受験が終わる前から問い合わせるケースもあるという。

ただ、ある難関中高一貫校の校長は「大学受験への不安もあるだろうが、せっかく高校受験のない中高一貫校に入学したのだから、中学時代は自分で学びながら、勉強以外に視野を広げるような活動もして欲しい」と話す。

一方、中学受験では希望がかなわず、高校受験に切り替える子どももいる。

栄光ゼミナールによると、首都圏の中学受験生の4人に3人は、国公立中のうち私立が第1志望。複数の私立中を受験することが多い。一方、残りは公立中高一貫校が第1志望で、1校勝負の受験生も少なくない。その場合、私立を併願して合格したとしても、地元の公立中に進学するケースが多いという。

同塾中学入試責任者の藤田利通さんは「公立中高一貫校は高倍率のため、子どもたちは不合格も視野に入れていて、気持ちの切り替えが早い。親が引きずってしまうことがあるので、早めに三者面談をする」。

高校受験で特に注意したいのは数学だといい、「算数嫌いのまま受験が終わり、不合格だった子が、中学で数学が得意になるケースは少なくない。新しい科目として向き合った方がいい」と指摘する。

中学受験は試験の点数だけで合否が決まることが多いが、高校受験では内申点も軽視できないという。「何事にも前向きで取り組み、提出物などの約束事は守る。社会に出てからも大事なことです。これを身につけるだけで内申点はついてきます」。また、公立中では部活に力を入れている学校が多く、活動期間は様々。入りたい部が受験勉強と両立できるか、しっかり見極めるべきだという。

第1志望の私立中に合格できず、気を落としたまま公立中や別の私立中に進学し、高校受験に挑戦しようとする受験生もいる。早稲田アカデミーの酒井和寿・教務本部高校受験部長は「中学受験は人生をかけて挑んだのだから燃え尽きて当然。でも、高校受験を考えているなら、動き出すのは早い方がいい」と言う。「スケジュール管理や弱点科目との付き合い方など、受験に必要なイロハは中学受験で獲得している。そのアドバンテージがあるうちに、高校入試の鬼門である英語に取り組むべきだ」

受験を終えた子どもや保護者は、この時期どう過ごせば良いのだろうか。

中学受験カウンセラーの安浪京子さんは「たとえ合格したとしても、親まで浮かれすぎないように注意が必要」と指摘する。

中学受験を終えるとパタッと勉強しなくなる子は多く、「学習習慣をつけるのは時間がかかるが、崩れるのは一瞬です」。中学進学後に勉強について行けなくなり、退学してしまうケースもあるという。

「中学に入って、子どもにとって大切なのは、新しい環境で友達をつくり、居場所を作ること。勉強は二の次になりがち」と安浪さん。だからこそ、受験終了直後の、この時期の地道な学習が大事だという。「市販のテキストで良いので、少しずつ中学で習う数学や英語を先取りして勉強しておくといいでしょう」

ただ、勉強をする上で、「子どもも親も、意識を変えなければいけない」とも指摘する。親がつきっきりで勉強を見てきた中学受験までとは違い、これからは子どもたちがより能動的に勉強に取り組むことが求められる。なかには、親が不安にかられて子どもを塾に通わせるケースもあるが、「子ども本人の意思確認は絶対に必要。親が無理やり塾に通わせても、本当の意味での学習習慣は身につかない」。まずはこれからどういう形で勉強していきたいか、親子でしっかり話し合った方がいいという。

安浪さんが中学受験を終えた親子に勧めるのは、中学受験のために使ったプリントやノートの整理を親子で一緒にすることだ。

「たとえ受験が不本意な結果だったとしても、これだけ勉強してきたという事実は絶対に裏切らない。そこをきちっと親子で確認することで、自信をもって次に進めるようになると思います」。思い入れのあるノートなどがある場合もあり、何を保管しておきたいか、本人に選ばせることも大切だという。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.